

特集

新春企画・ コロナ下で見る明日の夢

「家にずっといることのたいへんさ」「病院へも学校へも近所のスーパーへも行けなくなってしまった」「毎年楽しみにしていたイベントがなくなった」「当たり前と思っていたことができなくなってしまった」などのストレスを誰もが経験したかと思えます。そこで実現の可能性はともかく「コロナ下で思った・感じた夢や希望」を、新春らしく前向きに自由に楽しく語っていただくことにしました。



“あおぞら共和国” の里山づくり



SSPE青空の会
みんなのふるさと“夢”プロジェクト 実行委員
畑 秀二

北杜市白州にある、“あおぞら共和国”には、ロッジが建っている敷地以外に、ほぼ同じ面積の森が付属していることをご存じでしょうか。実は、ロッジの

ある敷地の北方向の対角線状に隣接してほぼ同じ面積の森があります。

この森では戦後の復興期にアカマツが植林され20～30mの高さになっています。奥の方は、コナラの薪炭林だったようで、それが人の手が入らなくなり、灌木類も生い茂る荒れた森になっていました。特に、かぶれやすいツタウルシが大蛇のごとく枯れたアカマツに巻き付く暗く怖い森となっていました。これを埼玉の森づくりグループ”葉“による遠征活動などで、ツタウルシを駆除し、枯損木を整理し、周回遊歩道を作るところまでできていま

す。結果、散策位には使える森になっています。多くの種類のカエデ類がみられ、川の跡と思える苔むした岩が露出する日本庭園風の場所もあります。



“あおぞら共和国”の森 ステージ横から行けます(GoogleMap 空撮)





“あおぞら共和国”の森 周回遊歩道(トレールランの練習もできます。)

しかし、“あおぞら共和国”のこの森は単なる散策の森ではなく、もっと積極的に活かせると考えています。

まず、“あおぞら共和国”建国のコンセプトに、「環境にやさしいエネルギーを使う」があります。電気やその元である石油エネルギーが普及する前は、地元の人々の生活のエネルギー源としての薪や畑の肥料をとる森で、定期的にそれらを消費することで

森の新陳代謝が進む、明るく開けた里山だったはずです。

これを復活させたいと考えています。ロッジの薪ストーブの良質の薪の供給源とし、薪にするため根元を残しての伐採後は再度枝が成長し、太陽エネルギー+CO2吸収～樹木成長～伐採燃焼消費の“あおぞら共和国”内でエネルギー循環システムができます。

また、利用家族が自然をより満喫するための環境

として整備したいと思います。ウッドクラフトワークの材料集めの場、宝探しなどネイチャーゲームの場、ツリーデッキをつくり木の香りや風を感じる場、にするなどが考えられます。



ウッドクラフト・こどもたちの作品例

さらに現在、“夢”プロジェクト実行委員会の発案で、難病で亡くなったこどもを偲ぶための四季おりおりで楽しめる地元の樹木を植樹した、メモリアル空間

を作ることも決まって、森の奥の一角で準備を進めています。ここには亡くなったこどもたちのネームプレートを張った小さな石碑も設置する計画です。



亡くなったこどもたちのメモリアル植樹予定地

このように、いろいろと森活用の夢は膨らむのですが、それらを実現させるには、人手が必要です。これまでは首都圏の団体が整備に来てくれていましたが、今後は地元の有志に働きかけて里山づくりのボランティアグループを作り、地元の方と一緒に活動を楽しむ交流の場ともしたいと思います。いまは新型コロナの流行蔓延期で、人集めを呼び

掛けることも難しく、思いを募らせるだけですが、コロナが落ち着いたら、賛同してくれる地元の方を探したいと考えています。

もちろん、「がんばれ!」の読者の中で、里山づくりに興味があり、森の中のおいしい空気を吸いながら、汗を流してみたい人は是非、一緒に参加いただければ幸いです。

